○事故報告書の記載と記入上の注意事項

事故報告書（受注者用）様式－２(1)、２(2)、２(3)及び添付資料の内容です。
コード入力に関しては、添付資料のコード表を参照し記入して下さい。

１．様式-2（1）の記載内容と記入上の注意事項

・工事名　　：工事の契約件名を記入して下さい。
・事故発生年月日　：事故発生日時を記入して下さい。
・元　請
①社名　　：元請け会社の名前を記入して下さい。
②建設業許可番号：建設業許可番号（大臣あるいは知事許可番号）を記入して下さい。
ア．大臣許可、知事許可
大臣許可の時は00、知事許可の場合は02～93（表１）の中から選択します。
イ．番号
許可番号を記入して下さい。
12等の6桁未満の場合、頭に0000を付けて 6桁 000012 として下さい。

【例】　〔00-123456、 12-001234〕

③電話番号　　：会社の電話番号を記入して下さい。

・事故発生状況
①事故概要：当該現場において被災者の事故に至る経緯と状況を記入して下さい。

【例】　現道拡幅工事で中央車線部の路盤工を施行中であった。当時はダンプで運搬した路盤材を小型ブルドーザーで敷き均す作業を行っていた。後方を確認せずにブルドーザーを後進させ作業員を轢き殺してしまった。

②他の作業状況：事故当日、当該作業場以外で行われていた作業内容を記入して下さい。

【例】　南側側道部において防護柵(ガードフェンス)を取り付けていた。北側側道部では排水溝ブロック（コンクリート二次製品）および縁石ブロックを設置していた。工事区間の間の前後では、一般車両と通行人が侵入してこないように迂回路への交通誘導をしていた。

③当該作業の指示内容と指示方法（事故当日）
：事故当日、作業員に伝達した当該作業の指示内容と指示方法を記入して下さい。

【例】　当日の朝礼で、敷き均しする作業員に①敷き均し作業を行う場合にはブルドーザーの後ろに立たないこと。②常にブルドーザーから距離を保って作業することの２点を口頭で指示した。

④当該作業に伴う安全上の注意事項の伝達内容（事故当日）
：事故当日、作業員に伝達した安全上の注意事項について記入して下さい。

【例】　ダンプ及びブルドーザーを後進させる場合、誘導員が後方に人がいないことを確認した後に運転手に合図を送り作業させること、作業員はダンプ、ブルドーザーに背を向けないよう伝達した。

・工事全体の進捗度：事故当日までの工事全体の計画での進捗度と実績の進捗度を記入して下さい。

【例】　計画50%　　実績40%

・当該作業の進捗度：事故当日までの当該作業の計画での進捗度と実績の進捗度を記入してください。

【例】　計画60%　　実績20%

・人的要因・共通要因

・共通要因

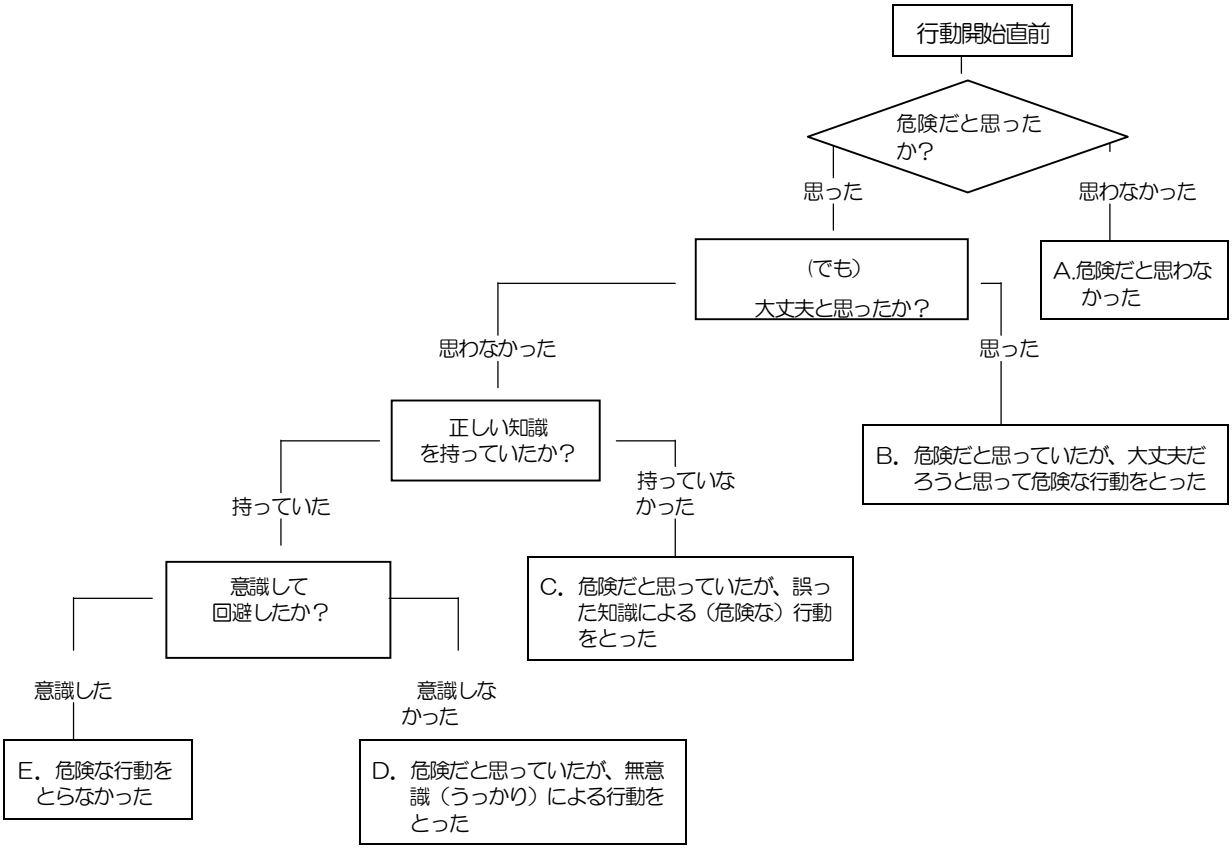
■当該現場関係者が、それぞれの関係者にどのように状況を判断して行動を起こした結果、事故に至ったかを聞き取り調査して共通要因欄を入力して下さい。
したがって、死亡者については聞き取りが不可能なため、この欄は空欄となります。

危害を加える行為をした者、危害を受けた者、自らの行動で被災した者毎に、どれか一つに○をし、更に人数を記入して下さい。

■以下に示す事故に直接関係した者（当該現場関係者に限る）を対象に当該事故に当てはまる関係者について記入して下さい。

事故に直接関係した者
- 危害を加える行為をした者
  （例：後方確認を怠って他の者に危害を加えたダンプ運転手　等）
- 危害を受けた者
  （例：ダンプの後方移動に気づかずにダンプに轢かれた作業員　等）
- 自らの行動で被災した者
  （例：足場移動時に安全帯を外して墜落した作業員　等）

■次頁のフローを参考にして下さい。



(注) このフローの目的は事故に至る過程を追跡することであり要因を調べることが目的でありません。

・人的要因、物的要因並びに管理的要因

上記「人的要因・共通要因」の内容について、関与度の高い順に最大4つまで要因コード(表2)を選んで記入して下さい。

なお、該当する要因コードが存在しない場合、その内容を[ ]の中に記入して下さい。

【例】危害を加える行為をしたものが2名、及び危害を受けたものが1名いた場合

人的要因・共通要因	危害を加える行為をしたもの	A	2	B	1	C
事故関係者毎にどれか一つに○、	危害を受けた者	A		B	1	C
更に人数を記入する	自らの行為で被災した者	A		B		C

【例】

1. 人的要因	危害を加える行為をした者	02	24	21		その他[ ]
	危害を受けた者	03	05			その他[ ]
	自らの行為で被災した者					その他[ ]

2. 物的要因	22	03			その他( )
3. 環境的要因	10	14	07	12	その他( )

・事故の要因：被災者が事故に遭った要因を記入して下さい。

> 【例】　安全工程打合せで指示していた後方確認をせずブルドーザーをバックさせたことが主要要因である。

・事故の背景：被災者が事故に遭った背景について記入して下さい。

> 【例】　交通誘導員が現場を離れていたために、工事区間内に誤って歩行者が入り込んだ。このため、本来はブルドーザー後方の安全を確認するべき誘導員が、この歩行者を工事区間外へ誘導しようとして、ブルドーザー後方での作業への注意がおろそかになった。

・当該作業に関する指示系統

当該作業において指示系統がどのようになっていたかを入力して下さい。
（元請け下請けの体制ではなく、指示の関連を入力します）

①下請け次数
：下請け社は次数を入力して下さい。

②役職コード
：当該作業組織上の責任者の「役職コード（表３）」を入力をして下さい。

③被害者・加害者区分
：被害者は○、危害を加える行為をした者は×を記入して下さい。

④事故発生当時の行動区分
：事故が発生したときの「行動区分コード」（表４）を記入して下さい。

⑤事故発生時の行動内容
：事故発生時の行動を記入して下さい。

⑥年齢
：当該者の年齢を記入して下さい。

⑦当該作業に係わる所有資格・免許
：当該作業に係わる所有する「資格・免許コード（表３）」を記入して下さい。

⑧役職に対する実務経験年数
：選択した役職での実務経験年数を記入して下さい。

⑨資格・免許取得後の実務経験年数
：資格取得後の実務経験年数を記入して下さい。

⑩現場経験年数
：他の作業所を含めた現場経験年数を記入して下さい。

⑪入場日数
：当作業所での入場日数を記入して下さい。

⑫当該作業現場の周辺状況
：当該作業現場の周辺状況をプルダウン選択入力して下さい。
ここで、選択項目に表現されている“当該作業現場に隣接する他工事”等とは、単に他工事あるいは他の企業体の施工ヤードが隣接しているというのではなく、他工事あるいは他の企業体の作業空間と接している状況を対象とします。

＜注意＞
「他の作業の下請け」と「被災者：○、危害を加える行為をした者：×」欄の関係において、この欄への記入は“×”のみで“○”は有り得ません。

・被害の状況

①被災者氏名　　：被災者の氏名を記入して下さい。

②性別　　：被災者の性別についてどちらか一方に〇印を記入して下さい。

③現場経験年数　　：被災者の現場作業の経験年数を記入して下さい。

④入場日数　　：被災者の当該現場での新規入場後の作業日数を記入して下さい。

⑤事故歴の有無とその内容

：被災者の事故歴の有無についてどちらか一方に〇印を記入して下さい。
事故歴がある場合には、その事故内容を記入して下さい。

⑥社員・季節労働者の別

：被災者の社員、季節労働者の別を選んで〇印を記入して下さい。尚、被災者が下請社員の場合は（　）内にその次数を記入して下さい。

2．様式-2（2）の記載内容と記入上の注意事項

・安全教育の実施状況

①現場全体

「新規入場者・作業変更者」、「作業員」、「その他」ごとに、「a．内容」「b．教材」「c．実施頻度」ごとに、コード表（表4）より選択して記入して下さい。該当するコードがない場合には「その他」の〔　〕内にその内容を記入して下さい。

【例】

対 象 者　　→　新規入場者・作業変更者に対して

a:内　　容　→　作業手順(03),事故時の応急処置(07),安全装置(02)について

b:教　　材　→　スライド(02)を用いて

c:実施頻度　→　(01)実施していた

安全教育コード	対象者	a内容	b教材	c実施頻度
	新規入場者・作業変更者	(03)(07)(02)	(02)(　)	(01)

また、安全教育の実施内容については、「内容」の欄へ具体的にその内容を記入して下さい。

【例】　安全保護具、各種機械の安全装置が支障なく作動するか否かについてチェックした。
さらに、作業が指示どおりに行われているかどうか点検した。

②当該作業

記入方法は①現場全体と同じです。

・安全対策の実施状況

①現場全体

安全対策の実施状況をコード表（表5）より選択して、「ハード面」、「ソフト面」それぞれについて記入して下さい。」

該当するコードがない場合には「その他」の〔　〕内にその内容を記入して下さい。

また、安全対策の実施内容については、「内容」の欄へ具体的にその内容を記入して下さい。

②当該作業

記入方法は①現場全体と同じです。

【例】

ソフト名　→　主に危険予知（ＫＹ）活動(02),安全朝礼(10)に重点をおいた。

ハード面　→　主に作業帯区画バリケード(01)の設置
立入禁止区域を設定(06),
第３者への注意標識(03)の設置に重点をおいた。

安全対策ｺｰﾄﾞ	ソフト面：(02)(10)(　)　その他［　］
	ハード面：(01)(06)(03)　その他［　］

・安全点検の実施状況

①現場全体

安全点検の実施状況をコード表（表6）より選択して、「1．人的面」、「2．物的面」、「3．管理面」、「4．環境面」のそれぞれについて記入して下さい。

該当するコードがない場合には「その他」の〔　〕内にその内容を記入して下さい。

また、安全点検の実施内容については、具体的にその内容を記入して下さい。

②当該作業

記入方法は①現場全体と同じです。

【例】

1.人的面　→　主に保護具(01)の点検、健康診断(02)を実施していた。

2.物的面　→　作業工具(04)の点検をしていた。

3.管理面　→　作業内容の確認(01)、作業手順の確認(02)を実施していた。

4.環境面　→　作業場所(01)の点検をしていた場合。

安全教育ｺｰﾄﾞ	1.人的面：（01）（02）（　）その他〔　〕
	2.物的面：（04）（　）（　）その他〔　〕
	3.管理面：（01）（02）（　）その他〔　〕
	4.環境面：（01）（　）（　）その他〔　〕

・事故後の現場全体の措置改善事項等

事故後に現場全体で実施された改善事項等を記入して下さい。

【例】　事故後、現場の安全体制を強化するため誘導員を3名増やした。さらに誘導員全員に無線機を携帯させ、誘導員間で常時連絡がとれるよう にした。
また作業員全員に建設機械の近くに入らないように指示を出した。

3．様式-2（3）の記載内容と記入上の注意事項

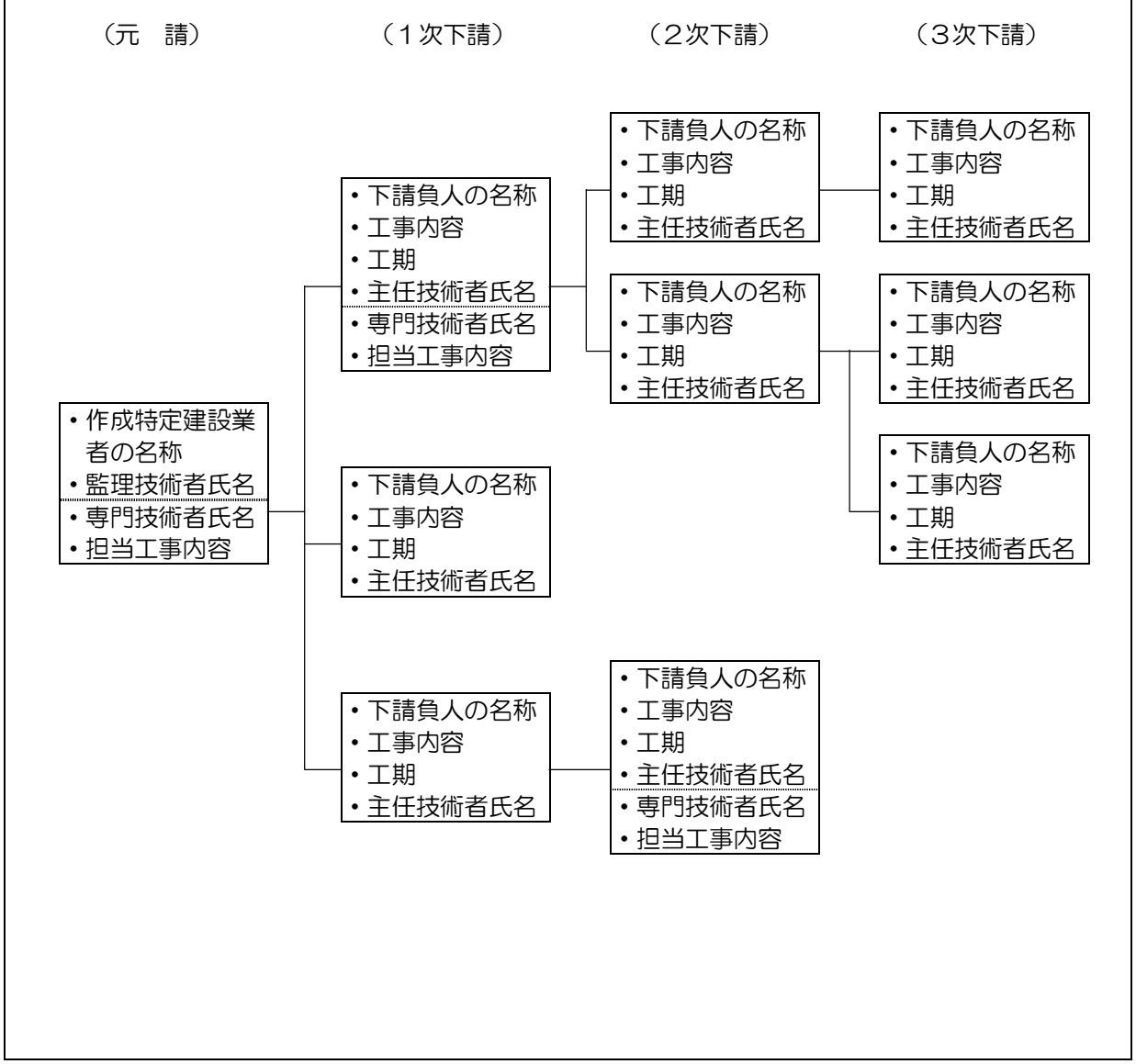
・施工体系図（図式を記載）

現場全体についての工事の種類・工期・発注者の名称等を記した図式を記載して下さい。
ここでは、現場に関係しているすべての業者について記入して下さい。

＜注記＞
施工体系図は、図式を取り扱うため、イメージデータとして添付資料①、②および③と同じ扱いにして下さい。

様式－２（３）

施工体系図
（無い場合は、それに準ずるものを貼付してください。）



４．添付資料の記載内容と記入上の注意事項

・添付資料①：事故現場の写真を貼付して下さい。枚数の上限は３枚までとします。
写真は電子化することを原則とします。

・添付資料②：事故状況説明図を貼付して下さい。図中には
⑴ 必ず寸法を記入すること。
⑵ 事故のポイントとなる部分を明示して下さい。
また、図面は電子化することを原則とします。

・添付資料③-1､２：事故状況平面図・断面図を貼付して下さい。
図面は電子化することを原則とします。